



## 目の前の人の思いに寄り添い 自分にできることをする

いつもは穏やかに明ける正月が、目を覆うような映像で一変した。その日の翌日、私が紹介した航空便で東京へ向かうはずだった組合員さん。やっと電話がつながったのは、宮崎空港で足止めされ、やむなくキャンセルの手続きをされた後でした。

年末のある日、「東京に住む2人の息子に会いたい。そして鎌倉で家族水入らずで正月を過ごしたい」と和かに話される思いに応えて手配して差し上げた、串間市にお住まいの組合員さんでした。

「遠いところご足労おかけして申し訳ありませんでした」のお詫びに、「いいんですよ。今回は仕方ないことだし、息子も心配してくれて、思いがけずたくさん話ことができました。平島さんも心配してくれてありがとう」と逆に労いのお言葉をいただきました。鎌倉のホテルなどのキャンセル手続きをすると、「せっかく宮崎まで出てきたから、リゾートホテルでゆっくりしたい」というご希望を伺い、すぐにご要望に沿うプランを手配して差し上げました。

今回は、思いもよらないことで組合員さんの楽しみが不意になったのは残念でした。でも、そんな中でも組合員さんのためにできることを精一杯取り組む。そんな思いを大切に仕事をしています。

後日、「いかがでしたか？」とお電話を差し上げると、「とてもよかったですよ。一日バタバタしましたが、ゆっくり過ごすことができました。平島さんからすぐにお電話や手配をいただいたおかげです。ありがとう」



コープみやざきへの就職は、母がすすめてくれたことがきっかけでした。わが家の食卓には、子どもの頃から生協で購入した商品がならび、生協の商品と一緒に育ったようなもの。なので、コープ牛乳やパンちゃん（氷菓）には愛着がありました。

就職を考えるようになってからは、「地元宮崎のために役立つことがしたい」と思うようになったこと。それと、子どもながらに感じていた「生協の商品は安全・安心」という魅力も、コープみやざきに就職する決め手だったように思います。

就職後は、まず組合員さんに商品をお届けする共同購入の「地域責任者」を経験。4年目から商品本部で商品の仕入れや共同購入カタログ制作、店舗の品揃え担当などに携わりました。一時期は、九州の8つの生協が共同で商品事業を行う「コープ九州事業連合」や、全国の生協カタログを担う「日本生協連」にも商品担当として参加し、様々な経験をさせてもらいました。

自分が取り扱った商品をご利用いただいた組合員さんから「おいしかったよ」「便利でしたよ」と声が寄せられたときは、とても嬉しく幸せな気持ちになります。そして、多くの組合員さんにご利用いただければ、「お役に立てた」と実感しますし、とても励みになる。そんな体験が私の心の財産になりました。

そして今、旅行センターという初体験の仕事に携わる機会をもらいました。組合員さんから旅行のご相談をお聴きして、航空券や宿泊、カーフェリーや他社ツアー、テーマパークチケットの手配などをお手伝いしています。組合員さんのご希望に沿って、少しでもお得になるプランの提案も心がけています。

ご旅行された組合員さんから「楽しい旅行ができました。平島さん、ありがとうございました」と声をいただいたときは、「提案してよかった！」ととてもうれしい気持ちになるし、仕事のやりがいにもなっています。

仕事は時に大変な面もあります。ですが、自分に正直に仕事をさせてもらえる職場風土、そして組合員さんの声をもとに仲間の職員やお取引先と協力し合える組織風土があって、のびのびと仕事ができるのを実感しています。

コープみやざきの方針書には、「ケーキを買いあげケーキを買いあげるのではない。旅行に行くけど旅行に行くのではない」という一文があります。旅行なら、たとえば宿泊するだけが目的ではなく、家族や友人と一緒に過ごす大切な時間が本当の目的だったりします。生協の仕事は、組合員さんの思いに応え実現すること。組合員さんのお気持ちに思いを馳せて、これからも自分にできることに全力を尽くしていきたい。そう思います。

# Shigeru Hirashima

体験するどんな仕事も「組合員さんのために役立てるように」は変わらない

